

東北日報

刊休無中 本紙は毎月十日発行され、毎週日曜日は休刊である。また、臨時増刊号は、選挙日、臨時選挙日、臨時開会日等に発行される。

社説

平魚市場問題が、舊市場側との間に、それに縣當局と三ツ巴の波紋を惹き起し、あるも何れが正當の主張を爲すかは問題とせられてゐる。

宋戸屋外組合が舊市場の權利を三十五百圓で譲渡したと同時に新設市場が株式募集をして堂々と平魚市場を開始した。

舊市場側は、市場を閉ざして個人營業をしてゐるこの營業關係は百余年の歴史を有するばかりでなく地方的の慣習と、個人的交渉のある爲めにそれぞれ抜きさしのならぬもの下結ばれてゐる。

新設市場側としては金三千五百圓の權利で譲渡をうけてゐるから直ちに營業全体を徹廢せよと主張してゐる。縣當局は町當局に指令して宋戸屋側の營業を停止させよと指示した。

考ふるに、舊市場の權利を三千五百圓で譲渡したことは事實であらうが、一軒當り七百圓といふ僅少な金銭で先祖傳來の個人營業權利までも譲渡した。譲渡されたといふのであるならば兩者はまさか狂人の沙汰である。類似の行爲とすれば他に百

千の例がある。要するに縣の指令は失態であり新設市場の如きは雅量のない阿呆である。吾人はこれを争闘化なきしめた者をわらふ。

伏見町長再選

青沼派の面目玉丸潰れ

豫算審議並に町長改選町會取對抗してゐたが午後二時三十分前開会から開時十五分に至つて議員が漸々の豫定であつたが、伏見く顔をみせ險惡な空氣の中再選派、青沼推薦派との勢に開會を申し阿部議員の力が伯仲してゐる結果は定程變更動議が成立して町長刻に至るも開會する事が出改選を行ふ事となり堂々め來す井上一派は山本屋旅館ぐりの決戦投票の末與論のに、再選派は炭屋旅館に、方は遂に勝つて伏見町長が中立組は森本町議宅に夫々再選重任する事になつたか

明年度の平町豫算案

歳入 四十四万九千九百九十九圓

歳出 四十九万八千二百圓

歳入	四十四万九千九百九十九圓
歳出	四十九万八千二百圓
臨時部	一、三三三、四二〇圓
臨時部	一、二二六、四〇〇圓
合計	一、〇六六、八二八圓

得票は左の如くである

當選 一五票

伏見 彦衛

次点 一三票

青沼 鋒太郎

白票 一票

投票總數 二九票

スリ常習捕る

茨城縣磯原町生れ前科三犯

神田一(二三)はスリの常習

者で昨年末福島刑務所を出

獄後石城郡地方に入り込み

スリを働いてをり二十二日

夜半驛の雑踏の中でスリを

動かんとしたる處を平署

の手に逮捕された

取り押へられた

駈落ち者

一、女給のぬれ事

平町驛前カフエーヌテーザ

水道給水事業費歳入出豫算増を見てゐる

一、財産賣拂代 一、二六、七九一

一、繰越金 一、〇〇〇

一、雑収入 一、三六三

一、町税 一、七八、五六九

一、町債 五、一、六〇〇

歳出 經常部

一、神社費 〇、三〇〇

一、會議費 一、五八〇

一、役場費 三七、七二六

一、土木費 四、五二五

一、小學校費 七、八、四九八

一、商業學校費 一、八、二二二

一、商業補習學校費 五、六〇〇

一、青年訓練所費 一、一八七

一、救濟費 三、四九六

一、警備費 一、四〇〇

一、徵發費 六、〇三二

一、基本財産造成費 一、〇七四

一、補助金 二、五六〇

一、寄附金 一、一五〇

一、臨時部 七二、一五七

一、臨時部 一、六七、〇三一

一、臨時部 一、六七、〇三一

約十五萬圓の増

豫算總額六十八萬九千九百九十九圓

平町新豫算案

平町の明年豫算案は別項は、歳入二十三萬九千九百八十八圓、歳出經常部七萬二、九百八十二圓とあるが之を千五百七十七圓、全臨時部二十三、九百九十五圓と比較し、六萬七千三百一十一圓計二十三、九百九十五圓に比較し、九萬九千八百八十圓で、前年に見ると五百七十七圓の減少を示してゐる此の殘額八圓の激増を見てゐるが特別會計の増額は水道擴張工費の十九萬圓が、明年度から支出される爲めである、特別會計を加へた平町の全豫算額は六十八萬九千九百九十九圓で前年度豫算額より十四萬二千六百五十三圓の増を見てゐる

一、學事諸費 〇、五〇〇

一、財産費 一、一七一

一、諸税及負擔 一、一八一

一、トランプ豫防費 六、一三三

一、街路撤水費 三、七五六

一、雜支出 〇、一五〇

一、傳染病豫防費 八、九三三

一、公債費 五、一、九八八

一、傳染病院費 二、五三二

一、戻入金 二、八、二二二

一、汚物掃除費 七、三、四二二

一、地方改良費 一、三、九〇〇

一、公團費 一、二九一

一、火葬場費 五、八八八

一、勸業費 〇、九〇〇

一、統計費 四、〇〇〇

一、職業紹介所費 三、四九六

一、商業學校費 一、八、二二二

一、救濟費 一、四〇〇

一、警備費 六、〇三二

一、徵發費 一、〇〇一

一、基本財産造成費 一、〇七四

一、補助金 二、五六〇

一、寄附金 一、一五〇

一、臨時部 七二、一五七

一、臨時部 一、六七、〇三一

一、臨時部 一、六七、〇三一

一、臨時部 一、六七、〇三一

一、臨時部 一、六七、〇三一

一、臨時部 一、六七、〇三一

一、臨時部 一、六七、〇三一

乗合自動車か泥酔者を轢く

昨夜鎌田での出来事

二十二日午後十一時頃石城

郡四倉町鈴木自動車部運轉

手鈴木定雄(二三)が第七五

五号自動車運轉し全郡神

谷村字鎌田地内國道を疾走

中前方を泥酔歩行中の全村

菅野道清(二二)松崎武雄(

二三)平町七丁目今泉源喜

(二三)の三名を避けんとし

てかへつて轢き倒し菅野

第一他から見ると悪い了見

水割かふとは悪い了見

狂ひひみで見えるイヤジ

ヤアリマセンカ(凸凹)

ごこの乗合自動車だつた

か僕の立つてゐる前にビ

タリと停車して車のドア

を開けた僕はボンヤリし

てゐると四倉でせうと云

ふ驚いた僕はイヤ運轉

手曰くイヤイヤハツキリ

シロイそんな理屑がごこ

にあるのだらう(憤激生)

筆洗ふ前に

こゝ外の農村を散策した

破れ垣から紅梅のはや咲きが

らららとほれてゐる。

風は冷たく野つら吹いてゐる

春が来た。春がついてこま

ひそやかに歩みよつた。

田舎彼方。此方に農人の姿

がてんてんしてゐる。

陽光がきら／＼と照る。

陽光がきら／＼と照る。

ふりあがるカワの金色がきら

／＼と光つてゐる。

歌々として勞作してゐる。

勞作の祈りも言ふことが出来

やう……あの歌々たるすがた

天然も沈もく勞作をつづけ

る農人自然との混然たる一

体こそ勞作の祈り……祈りの

作ではあるまいか。

林説 色洞講 (六)

炊 骨 庵

歌人として有名で全時に好色家と知られ「古今集」に八首も歌が入つてゐる平貞法皇の御供をして大井川に文事半仲は在原業平に次ぐ非常な美男であつたそうだが、此の平中が宇多天皇の中宮の侍女武藏守の娘に「もよしの袂の数は見しかども、別れきて思ひの色ぞ戀しき」と戀歌を送つた、此の侍たがこれを女は許さなかつ女も仲々の美女で、今時めたと云ふ滑稽な話しが今昔く平中からの戀を喜こんで物語の中にある。好色道の受け容れた迄は良かったが大家である平中も此の時は一夜の情を結んだきり何のかりは女が氣の毒で、己れ使ひもないので、「さては一夜で見捨てられたのであるか」とはつかしと憤激のあまり髪を切つて尼となり平下さ」と泣いたそうだ。

首賭 商賣



若き武士がある……浪々の身に今は無一文となつて其の日の糧にも困つてゐる。それでも武士だ……武士は食はねど高揚子で日を送つて居たが命がもたない。思ひついた道場荒しに金を得た、食の道がつくと又他に慾が出る……女を求めた。女を求めた時又余分の金が慾しくなつた。其の金を得るために首賭の商賣を始めた。

(近日平館上映)

佐川洋服店

営業所 平町三丁目二七 電四一八番
本店 平町南町通り三〇 電(呼)二六九番
支店 植田町本町通り 電五一番

印刷物一般の

御注文は安く良く速く

本社印刷部に御用命を願います

主任 丸山隆市

平・白銀町一〇(電話七五七番)

祝創刊

三函座

湯本町

平・好間・乗合・貸切迅速

三井自動車部

二丁目谷口横町

電 八番 一五六番

俺が服見よ、自慢ぢやないが

買はぬ者ない、正札堂

アラ正札堂

物は試しよ、正札堂へ

来てよ見さんせ、服買ひに

アラ服買ひに

薄利多賣は此の店の主義

不景氣泣かせの、福の神

アラ福の神

正札堂

平・四丁目停車場通り

祝創刊

三井はきもの店

平・二丁目 電一五六番

処方調劑、藥品一般
体温計、寒暖計
滋養藥品、化粧品

平町五丁目角

山野邊藥局

藥劑師 山野邊東次郎

(健康保險藥局)

外科一般 (入院隨意)

内臓外科専門

花柳病科

平町六丁目(橋際)

木村科醫院

電話三〇九番

オートバイ付 貸切

自轉車月賦販賣

織田自轉車店

電五三二番

平……四倉間 乗合迅速
平……湯本間 貸切迅速

三井自動車部

電六四〇番

印版彫刻

方圓堂

二丁目